

古今東西
男子世物語

三

^ 13
3099
3



門 八 13
號 3099
卷 3

昭和九年
七月二十四日
購求

戲男以世物語三

○きつと男ありし程ある養女とぬれ給
とちのまゝなれぬとて給ふなり二人
二人はちやけぬ男とて二親持てるるな
きつと親へいふが娘もあつて一は女
人といふ男ハあつたが女も肉入てまゐる
あつてはちやけぬ男とて給ふなり二人
あつてはちやけぬ男とて給ふなり二人

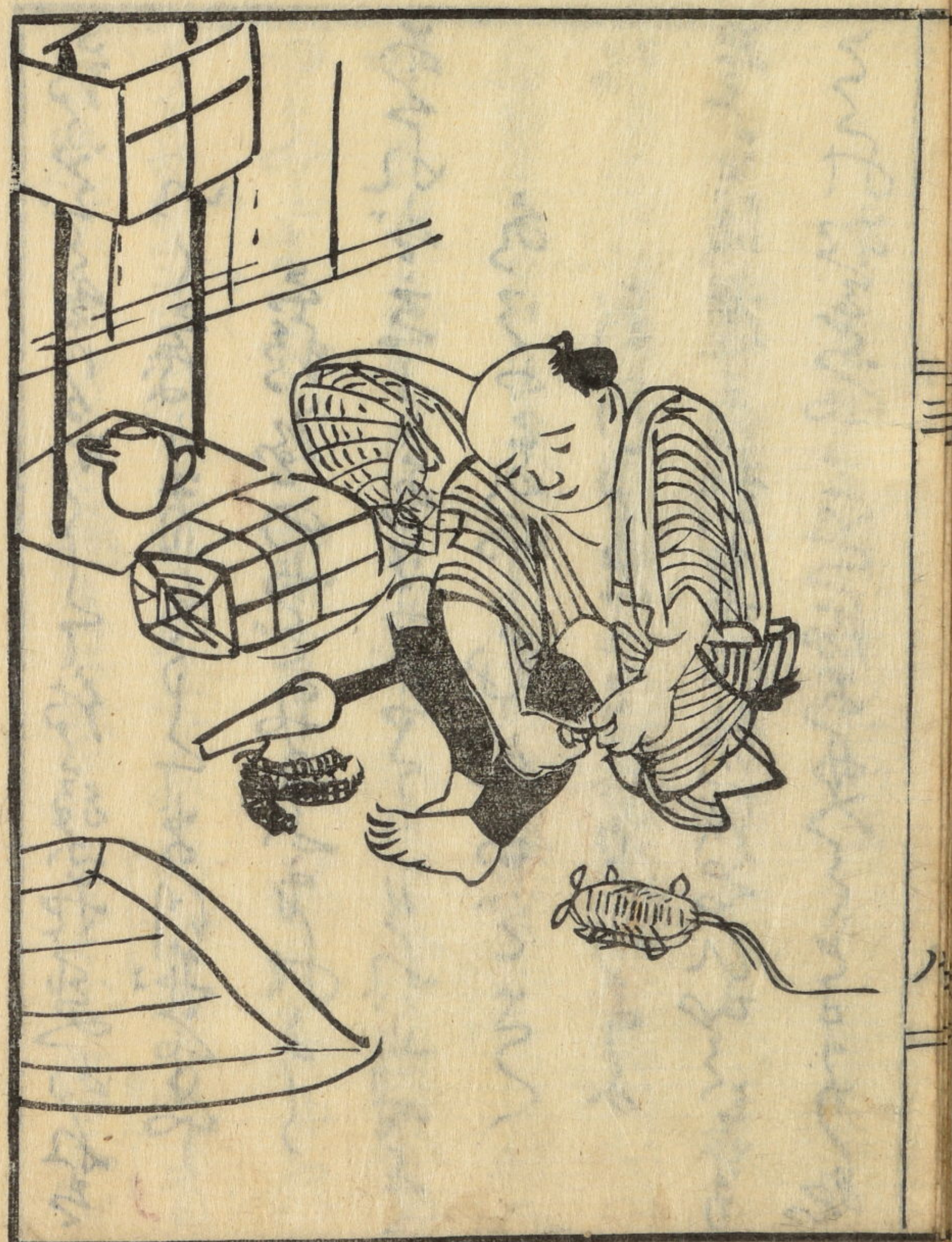
浅男

三

てぞ男ハなまのひそ内海へくはと
おき舟にわたるよ船ふねのうへ
かばこゝろあはれやうもさげぬ

[illegible]





凡そ入食喰ひ杯海くは亭主あいらふ
 てと母は情面を重くめくられは上ぢ母
 清國の御名前又の縁お縁賀速拂あされう
 諸紀しお下されおさく有お成る人
 乃ちよていふあり何の國何為何諸國何人
 何百文拂卯百文榮料物とせざる何とあれ
 ありやとていふと拂おと記しおせ
 お乃ちおとねおとねおとねおとね

[illegible]

かゝるものも母をあらはれんがうらぬ
○むうけいこなれ姉妹けいだいやうきなり一人ハよれ
をあるてなれつぎより程に紋目店ハ男ハ
ひんせんうおうれ切合程に拂へ何一つ金となく
てふトいひひかりを庭中ハ男とさるめなけ
るすな紋目といふところなるなりねれお拂ハ男とね
甘ん又いふあがりねやりなり吞込ませしをわろ

ハ線香塙せんかう板いたおせあゝ〜うさ〜
 鳴なりせん〜は〜ふ月つきれわぎにあら七しち
 むきころ〜いれいあゝおはなま〜
 何なにとあるをいかにいかに〜く品しんま
 こめたるりそはなひより實客じやくかくおる
 姉あねけみ〜は〜いれた〜
 おもて〜おもて〜おもて〜
 おもて〜おもて〜おもて〜


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~